

相棒

東御市梅野記念絵画館
館長 佐藤 修

唐突ですが、青木繁は弱冠28歳8ヶ月にして亡くなりました。明治44年のことです。青木には梅野満雄という無二の親友がおりました。梅野は、青木の生前の世話のみならず、その死後においても、青木の作品の散逸を防ぐための努力を惜しみませんでした。その献身的行為は梅野自身の命が尽きるまで続きました。

今日振り返るに、梅野のそうした働きがあってこそ青木の作品は守られ、語り継がれ、青木繁の評価は確かなものになってきたのだと思います。

孤高の画家・山内龍雄は、ゆるぎない哲学を持ち、透徹な眼で自身を見据え、自らが願った「無心の境地」に到ること間近でありました。しかし、2013年12月、突然その命は終わりを告げました。63歳でした。

山内の傍らには常にひとりの良き理解者がいました。須藤一實です。出会いから亡くなるまでの30年間、画家と画商の「二人三脚」を続けられた方です。山内龍雄という無二の「相棒」を失った今、須藤氏は、山内龍雄を「残す」事業を始めようとしています。

二人の「二人三脚」は再びスタートしたのです。

■ 2015・16年イベントスケジュール

- 11月1日(日) 山内龍雄展オープニング
- 11月29日(日) 劇団くるま座 中西八枝(ハンの星)公演
- 12月6日(日) 親子で描く年賀状
- 12月20日(日) クリスマスコンサート
- 1月17日(日) 友の会新年会

※変更となる場合もございます

■ お知らせ

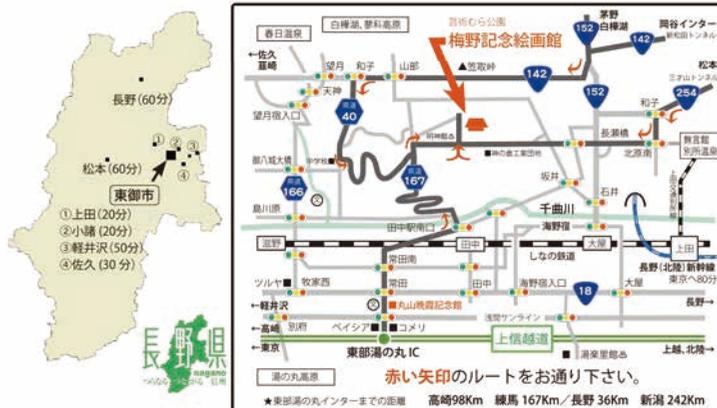
- ◆11月15日(日)、12月13日(日)に田中駅～当館の区間で送迎を行います。11時田中駅発、16時当館発です。予約が必要ですので、お電話にてご予約をお願いします。
- ◆当館は1月19日(火)～2月14日(日)まで収蔵品整理期間です。期間中は休館となります。
- ◆12月24日(木)～1月4日(月)まで冬期休館とさせていただきます。
- ◆2月16日(火)～3月27日(日) わの会の眼展

■ 施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1
TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp
開館時間 午前9時～午後5時(4時30分迄にご入館ください)
入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)
身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。
休館日 11月2、4、9、16、24、30日 12月7、14、21、24日 1月12日
冬期休館 12月24日～1月4日

■ アクセス

- 🚗 **お車** 練馬ICから2.5時間
- 🚆 **鉄道** 東京から最速2時間
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- ◆関東、北陸方面から
上信越東部湯の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@fmtomi785.jp



コンポジション

山内龍雄展

10月31日(土)～1月17日(日)

梅野
記念
絵画館
www.umenokinen.com

同時開催：荘司貴和子アンコール展

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162

私的精神的空間

ギャラリー・タイム
須藤一實

山内龍雄は北海道の原野に生まれ育ち、その地に住み続け、画を描き続けた画家だ。まったくの独学で制作を重ね、キャンヴァスを削って描くという独自の方法に行きついた。

私は34歳の時に彼と彼の作品を初めて目にした。私は、彼を紹介するためだけの画廊を作ることを決意し、ギャラリー・タイムを創設した。以降30年、山内は画を描くためにだけに生き、私は画商として山内の制作と生活を支えた。二人三脚は続いた。

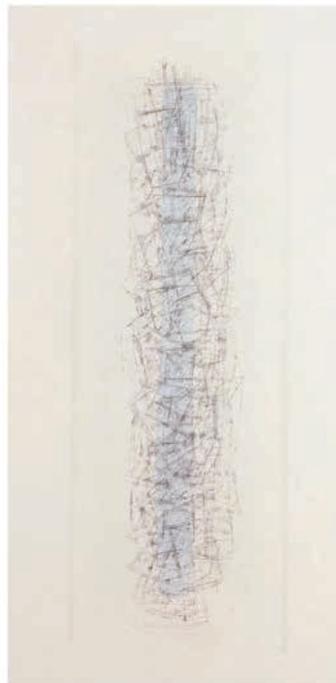
2013年末、山内は突然この世を去った。アトリエには未完の画が残り、私の元に山内の新作が届くことは無くなった。しかし30年続けてきた「山内龍雄を世に紹介する」という今までの方針を今後も変えることはない。

現在神奈川県藤沢市に山内龍雄記念館を建設中である。来春の開館を待つこの時期、梅野記念絵画館での展覧の機会を頂いた。

今展では、山内の初期から晩年まで、油彩画、紙の仕事、幅広く紹介する。「山内龍雄」という画家を知ってもらい、またその作品を多くの人に観てもらおうことが、「山内龍雄を世に残す」ことに繋がると信じている。

山内龍雄 年譜

- 1950 9月3日北海道の上尾幌町に生まれる
- 1971 独学で絵を描き始める
- 1984 画商の須藤一實と出会う
- 1988 銀座でギャラリー・タイム主催の個展を開催
- 1993 NICA(国際コンテンポラリーアートフェア)に出展
- 2008 オーストリアのグラーツのミュウワ美術館、ドイツのインゴルシュタットで個展開催
- 2009 台湾の台北で個展開催
- 2010 オーストリアのザールフェルデンにて個展開催
- 2013 釧路のアトリエで逝去
- 2014 長野の軽井沢現代美術館にて山内龍雄追悼展開催



私的空間

あの時空を再現できればよい
雲の上を歩くような、
何とも、捉えがたい触角に近い感覚
在るようでない、その未知の感覚
客観の生み出す世界観
現実と非現実の狭間
現実になろうとするものと
すでに現実たらんとするものとの
せめぎ
そのセメギこそ
これが現実そのものなのだ

それをまた、ユラギといってもいい
客観の眼で捉えた
生成の現場
正しくは生滅の現場だろう

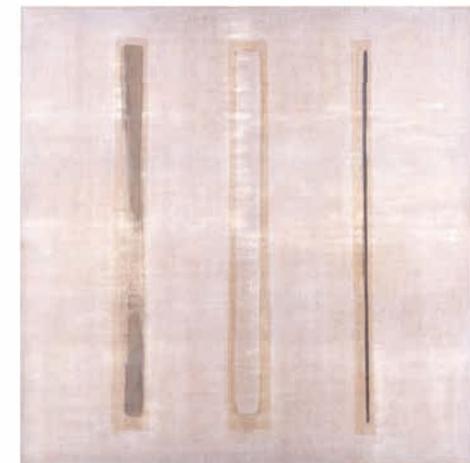
—山内 龍雄・「呟き」より—

…芸術には真に新しいもの、独創などは無い、
すべてのものは、それまでの歴史の偉大な諸要素を受け継ぎ、
その上に、現代のほんの少しの特性が生かされているに過ぎない
歴史に埋れ、見過ごされた宝物の、ホコリを払うだけでいい
その時代が要求するものを探し出し、磨き、改めればよい
いわば古典の中に新しさを見出すヒントが隠されているのだよ
君は、よく感性を研ぎ澄ましそれを現実化すればいい。

—山内 龍雄・「雑感」より—



私的空間



時間